

### IMF・世界銀行年次総会 CSO 連絡会 (第2期) 第4回全体会合 議事録

会場 J

日時：2012年9月26日(水) 16:30~17:30

場所：貸会議室・内海 2F 教室 (東京都千代田区三崎町 3-6-15)

出席者 録 3

#### 【議題】

1. 開会 出席者の人数 録 3
2. 議長選出 出席者の人数 録 3
3. 議事録署名人の選出
4. 議題 議題 1
  - 4-1. CSO プランニンググループ会議報告 出席者の人数 録 3
  - 4-2. 市民社会フォーラム進捗の報告 (スケジュール概要・部屋割・展示スペース)
  - 4-3. 高木仁三郎市民科学基金提案セミナーの件 出席者の人数 録 3
  - 4-4. 各会員団体の活動について
  - 4-5. 幹事の交代について
5. その他 出席者の人数 録 3

#### 【配布資料】

- ・参加者リスト
- ・会員団体一覧
- ・「IMF・世界銀行年次総会市民社会プログラムにおける関連イベントについて」
- ・市民社会プログラム・スケジュール

#### 【決定事項】

- ・IMF 世銀理事とのラウンドテーブルには幹事団体が参加。CSO 連絡会メンバーで参加する方は、事前に田辺さんまで連絡をする。
- ・タウンホールの CSO スピーカーについて、田辺さんから IMF・世銀に問い合わせる。
- ・タウンホールの発言については、質問タイムにそれぞれが手を挙げて発言をすることと申し、CSO 連絡会として意見を調整することはしない。
- ・市民社会プログラムのあり方、CSO 連絡会の対応について、年次総会終了後に総括を行い、文書として形に残す。

【議事録】 合会全回ト報 (第2期) 会務基 CSO 会務六半行議界世・IMI  
議事録

1.開会

2.議長選出

事務局からの推薦により、鶴見さん(プランジャパン)が選出された。

3.議事録署名人の選出

山田さん(オックスファムジャパン)、大橋さん(JANIC)が立候補。

4.議題

4-1. CSO プランニンググループ会議報告

田辺 (JACSES) :

配布資料「IMF・世銀年次総会市民社会プログラムにおける関連イベントについて」参照のこと。CSO プランニンググループというのは、IMF 世銀総会の CSO プログラムに対して、アドバイスをする位置づけ。大橋さん、石井さん(ジョイセフ)、田辺がプランニンググループのメンバー。鶴見さん、堀内さん(JANIC)も大橋さんの代理で出席している。これまで2回会議が開催された。理事とのラウンドテーブルは CSO にはオープンにされている。モデレーターは IMF・世銀理事が務める。CSO のスピーカーは3名で、うち1名は日本から大橋さんが登壇予定。

鶴見: ラウンドテーブルは、部屋の大きさの関係上、人数制限があるのでは。前もって CSO 連絡会から出席者を決めておいたほうが良いのでは。

大橋: もし希望が多くないようなら、CSO プランニンググループのメンバーと幹事団体は出た方がよいと思うが、ある程度、だれが出るのか決めておいた方がいい。せっかくの機会なので参加者がいたほうがいい。

林 (アフリカ日本協議会) :

参加登録していれば誰でも入れるのか?

田辺: 参加登録をしていれば入れる。

鶴見: 同時通訳は調整中。今年の春の総会では、IMF と世銀から各10名ほど理事が出席していた。幹事以外で出席する方は、田辺さんまで連絡をお願いします。

田辺: タウンホールについて、日本からモデレーターとして CIVIUS の今田さんを推薦した。CSO プランニンググループからは、最初のスピーカーの時間を少なくし、意見交換を長くしてくれないかと提案中。

稲場 (動く→動かす) :

発言者はどう決めるのか?

田辺：世銀と IMF が指名する。プランニンググループの中で、意見募集の呼びかけはあったが、それに対して具体的には CSO 側から提案していない。

稲場：CSO から積極的にインプットしなくていいのか？ IMF や世銀の総裁と話せる機会なので、CSO としてどういう人間が出るべきかという議論はあってしかるべきではないか。連絡会の中でしっかりと議論をして、何らかの形で推薦をしたほうがいいのではないか。ワシントンやイスタンブールの総会ではどういうプロセスで選出しているのか。

田辺：ワシントンでの年次総会では世銀と IMF が決めていた。CSO プランニンググループから、この人を推薦したいという提案をすることは可能。大橋さんと私から推薦できる。

山田：スピーカーを選出すること自体、慣例ではない。去年のワシントンでの年次総会は、スポンサーCSO から2名発言していた。ワシントン到着前からスポンサーCSO の他のメンバーから発言内容のコメントと募っていた。しかし昨年の場合、スピーチの時間が長すぎた。

稲場：我々として、そういう形でいいのかどうか。日本の市民社会はどういうかたちで対応する必要があるのか。

鶴見：発言チャンスとしてはフロアからの質問タイムがある。発言者はモデレーターが指名することになるだろう。

山田：タウンホールに来る人のリストを入手することができれば、推薦は可能だろう。

難しいのは、IMF や世銀をめぐって、見解を持っている人を選ぶこと。

林：本来であれば、どういう人を選ぶのか皆で共有しておいたほうがいい。

稲場：世銀や IMF についてずっとアドボカシーをしている人たちもいるので、日本の市民社会だけで決めることはできないのでは？

山田：普段アドボカシーをしている人たちは、この場ではあまりアドボカシーをしない。

大橋：ラウンドテーブルでの私の発言内容については、CSO 連絡会のみなさんに案をお返しすることはできるので、みなさんのお知恵をいただきたい。ただし、最終的な発言内容は JANIC で決めさせていただくのでご了承いただきたい。

鶴見：参加登録をしている人は、だれでも参加できる。発言をしたい方は、手をあげて積極的に発言していただくしかないのでは。

田辺：CSO スピーカーをタウンホールで設けることについて、そもそも私は反対だった。CSO が公正に選ぶプロセスを準備しているわけでもなく、また IMF 世銀が選ぶというふうのもどうかと考えた。しかし、IMF と世銀としてはこういう形でやりたいということ。

林：IMF と世銀として CSO を参加させているという形をつくりたいので、こうなっているのでは。

鶴見：CSO プランニンググループの中である程度決定されていることなので、今の段階で

田辺：今の段階で話を持っていても、効果はあまりないかもしれない。

林 会：外部での IMF と世銀への働きかけも用意されているのか？

田辺：それは各団体の取り組みの部分でご報告いただくことになっています。

白須 (日本リザルツ)：事前に誰がスピーカーなのかはわかるのか？

田辺：IMF と世銀に聞けばわかるだろう。確認する。CSO 連絡会のこれまでの議論の方向性から言うと、連絡会として共通したメッセージを発信することはない。

山田：「動く→動かす」政策チームでは、MDGs に関する意見の調整をしている。

#### 4-2. 市民社会プログラム進捗の報告

堀内 (JANIC)：

配布資料「IMF・世銀年次総会市民社会プログラムにおける関連イベントについて」

をもとに説明。

参加登録をした日本の CSO はバッジを事前に受け取ることができる。本人が手続きをする必要あり。詳細は年次総会ウェブサイトを確認してほしい。

■日時：10月5日(土)～6日(日) 8:00-16:30

■場所：東京商工会議所ビル(東京都千代田区丸の内3-2-2)

10月8日(月)～14日(日)に受け取ることも可能だが、混雑が予想される。

市民社会プログラムの部屋割りはまだ決まっておらず、10月上旬に通知される予定。

鶴見：部屋割りができていないので、通訳を望んでいてもつかないこともあることをご理解いただきたい。

堀内：質問や疑問があれば、CSO 連絡会の全体 ML でお問い合わせください。

#### 4-3. 高木仁三郎市民科学基金提案セミナーの件

鶴見：今回の市民社会プログラムには日本の CSO から 15 団体ほど参加する予定。高木仁三郎市民科学基金の件でいろいろとあったので報告をお願いしたい。

村上(高木仁三郎市民科学基金)：

当団体は10月13日(土)お昼の時間帯に開催することが決定された。簡単に経緯を申し上げる。8月後半に世銀に申し込みをした。内容は福島原発事故に関する意見交換をするということだったが、なかなか返事がなかった。問い合わせたところ、原発については世銀のマンデートではないので保留になっている、ということだった。世銀のエネルギー政策アプローチペーパーの中に「原発について途上国が望んだ場合はアドバイスすることがある」という記述があったので、マンデートではな

いか、ということは申し上げた。その後、世銀の自然資本に関するセミナーという  
 ことで再度提案した。しかし、それでも世銀としては難しいということだった。そ  
 こで、CSO 連絡会の ML で報告した。CSO 連絡会の皆様にはいろいろとご尽力いた  
 だき、幹事会のみなさんと 9 月に世銀と会合を持った。原子力は世銀のマנדート  
 ではないが、途上国のエネルギー問題全般についてであれば検討は可能ということ  
 だったので、提案書を世銀の意向を踏まえて修正し、再提出した。今回の総会は、  
 震災の復興を世界にアピールをするということが趣旨にあったので、それであれば  
 原発についても議論するべきではないかというレターを出した。9 月 21 日 (金) に  
 世銀の谷口さん、CSO 連絡会の幹事、当団体で面会した。10 月 13 日 (土) 開催を  
 希望していたが、すでに埋まっているが昼間の時間であれば開催は可能というこ  
 事になった。世銀のマンドートでないから開催できないということではなく、CSO と  
 の対話をするということでセミナー開催をしていただきたいと申し上げた。当団体  
 だけでは開催することはできなかつたと思うので、CSO 連絡会のみなさんには感謝  
 している。今回のことをどのように伝えていくのかについては、本日のみなさんと  
 の議論を踏まえたい。

水澤 (JANIC) :

高木仁三郎市民科学基金から連絡を受け、その重大性を受け止めて幹事会で議論を  
 行った。日本の市民社会がどのような議論をすべきかを討議した。原発は世銀のマ  
 ンドートでないとしても、諸外国からこれでいいのか、と取られてしまう。最終的  
 に開催できてよかったが、もし不可であった場合にどのような対応するかも検討し  
 た。来年以降も市民社会プログラムでこのような問題が起こった場合のことを踏ま  
 え、海外の CSO とも共有したい。方法はこれから高木基金と相談したいが、何か良  
 い意見があればお願いしたい。

鶴見 : 市民社会プログラム終了後、会合やメールなどでご意見を共有いただきたい。

#### 4-4 各会員団体の活動

堀江 (セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン) :

Save the Children Norway 主催のセミナーはキャンセル。SCUK は開催予定。

グローバル・ヘルスについて、保健分野 NGO の共催でセミナーをする。プログラム・  
 オブ・セミナーズで保健が扱われるため、それに対して CSO でもセミナーを開催す  
 るという位置づけ。

山田 : グローバル・ヘルスのセミナーについてメールで既に案内を流したのでご覧いた  
 だきたい。なお共催団体にリザルツ米国も名を連ねている。

片山 (ワールド・ビジョン・ジャパン) :

WVJ は、世銀のソーシャルアカウンタビリティイニシアティブについてインプット

をしていく、という内容で開催する。展示の申し込みもしている。

稲場:「動く→動かす」と JANIC で共催して MDGs のセミナーを開催する。今ポスト MDGs についても議論されているが、包括的成長について重要なテーマとなっている。包括的経済について、NGO はマイクロなレベルで様々な活動をしている。そうした活動を、政策レベルにどう統合していけるかということで企画した。NGO だけではなく、協同組合にも登壇頂く予定。政策的な観点で貧困をなくすということで、インドの農村雇用保障システムである NREGA について報告予定。ジェンダーの観点からも議論する。中国・インドという二つの新興国からゲストを招聘するので、先進性に富んだものになっていると思う。

鰐部 (日本リザルツ): リザルツでもセミナー開催予定。日本からオックスファムと JNNE も登壇する。金融取引税、国際連帯税について、市民社会プログラム外のイベントとして青山学院大学で行う。フランスの財務大臣が登壇予定。ベナンの財務大臣にもお声をかけている。連帯税の議連もお呼びする。400名参加可能なので、よろしければぜひご参加いただきたい。

山田: オックスファムも Land Management についてセミナーを開催する。土地に関する融資を世銀がしているが、その土地から食料を得ている人が追い出されてしまうということが起き始めている。FAO で原則が確立されつつあるが、世銀も土地の融資のクライテリアを作るべき、少なくともクライテリアを作るまで土地の融資をやめるべき、とオックスファムは提案している。メディア向けのスタントも予定している。市民社会プログラム以外の動きについてはメールで流した通り。

鶴見: 今日は来ていないが、地球サミット 2012 もセミナーを開催する。プランでは、Youth (Un)employment のセミナーをする。オランダ、インドネシア、日本のユース、世銀、企業が登壇する。

田辺: ML で流した通り、JACSES は 9 月 28 日 (金) に政策提言ワークショップを開催。

白須: 六本木のミッドタウンでイベント開催予定。ワクチンがテーマ。ストップ TB パートナーシップもセミナーを開催する。

大橋: フィリピンの Reality of Aid がセミナーを行うので登壇予定。詳細は分かり次第連絡。

#### 4-5. 幹事交代について

鶴見: JANIC の幹事が水澤さんから大橋さんに交代する。

#### 5. その他

山田: 高木基金の件を契機に今後共有していくという点について話し合いたい。そもそも

この市民社会プログラムが IMF・世銀の主催であるというところに矛盾がある。

稲場：この場では、本件に関する日本の CSO としての対応について、世銀・IMF 総会後に意見交換し、きちんと総括する、ということを決めることが必要と考える。本件事案は、CSO の正当な企画に対し、世銀・IMF がその内容を問題にして特定の企画を排除したという事案であり、本来はあり得ない話。一方、CSO 連絡会がどの程度、この件に対応できたのかについても総括が必要。

鶴見：全体会議では総括をする機会が必要なので、その時の議題にしたほうがいいのでは。

白須：総括をするだけでなく、きちんと文書にして出した方がいい。

稲場：9月21日(金)の世銀との会合でもいろいろな議論があったが、中には、世銀・IMF と CSO の対等なパートナーシップという観点からして、穏当でないと受け取れるような発言もあった。いずれにせよ、企画ができるようになったということで、総括なしにこのまま終わらせるという話にはならない。

鶴見：今回の議論の過程はきちんと残す必要がある。稲場さんの提案は妥当だと思う。

大橋：JANIC は、IMF や世銀を含む他セクターからのアプローチと、NGO との調整について、できるかぎり応えていく立場だが、そのことで何が得られるのかということが見えないまま走り始めた。そういうことが毎年繰り返されるのはよくないので、私達も判断が必要だし、その次の総会に対応する CSO にも伝える必要がある。直面した課題について、次のホスト国の CSO に伝える必要がある。

林：メディアからは、IMF と世銀が NGO と協調してやっていると見えてしまうと思うが、必ずしもそうではない。

大橋：主催は IMF・世銀ということだが、CSO は共催なのか、資金はどうするのかなどきちんと最初から考えていくべきだった。今回たまたま高木仁三郎市民科学基金のセミナーの件で問題があったので、課題が顕在化したのだと思う。

以上の議事内容を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び議事録署名人は以下の通り署名する。

議長 鶴見 和雄 (鶴見 和雄) 印

議事録署名人 大橋 正明 (大橋 正明) 印

議事録署名人 山田 太雲 (山田 太雲) 印

以上

